

PGI 第39回

# レディース チャンピオン

8/6(水)～8/11(月)祝 ボートレース浜名湖

真夏の女子レーサーの祭典・レディースチャンピオン。今年は2月のスピードクイーンメモリアル同様、浜名湖を舞台にして行われる。この大会が終われば女子の賞金バトルはさらに熱を帯びてくる。ランキング上位組が足場を固めるのか、それとも下位からの大幅ランクアップがあるのか果たしてー。



昨年覇者の遠藤エミ

## 大会最多タイの4V目を目指す遠藤エミ 強敵は浜田亜理沙とG1復帰戦の守屋美穂

優勝候補筆頭はやはり遠藤エミだろう。昨年はレディースチャンピオン、そしてクイーンズクライマックスで女子G12冠を獲得。女子レーサーの中に入ればその存在はひとときわ輝いている。もし連覇ということになれば、山川美由紀が持つ大会4Vの記録に肩を並べることになり、新たな記録樹立にも期待がかかる。

その遠藤の対抗格となりそうなのが浜田亜理沙。今期はいきなりフライングを切り重い足かせをつけてしまったが、翌節のレディースオールスターでは見事な立ち回

りで23年QC以来のタイトルを手にした。特に優勝戦は圧巻だった。5月からF1の選手がフライングを切るとこれまで以上に重い罰則がかけられるようになったが、浜田は抜群の集中力を発揮してコンマ09のスタートから圧逃してみせた。これまでの浜田はあと一歩のところまで敗れる勝負弱さもあつたが、ここきて精神力も成長したように見える。現状の強さなら一気に頂点まで駆け上がる可能性も高い。

また、Fの罰則で大舞台から1年近く姿を消していた守屋美穂が

# LADIES CHAMPIONSHIP in HAMANAKO

浜田亜理沙

守屋美穂

表1 ●第39回レディースチャンピオン出場予定選手

順位	登番	氏名	支部	勝率	事故率	着順点	
前年優勝者	4502	遠藤 エミ	滋賀	7.17	0.05	1,850	
LAS優勝者	4546	浜田亜理沙	埼玉	6.95	0.18	1,813	
オールレディース優勝者	4482	守屋 美穂	岡山	7.18	0.08	1,724	
	4590	渡邊 優美	福岡	7.06	0.34	1,651	
	4123	細川 裕子	愛知	6.82	0.26	1,733	
	4961	西橋 奈未	福井	6.74	0.16	1,483	
	4530	小野 生奈	福岡	6.68	0.20	1,369	
	5174	川井 萌	静岡	6.50	0.05	1,762	
	4433	川野 芽唯	福岡	6.50	0.01	1,756	
	5163	清水 愛海	山口	6.38	0.29	1,231	
	4190	長嶋 万記	静岡	6.35	0.23	1,569	
	4845	前田 紗希	埼玉	6.31	0.32	1,362	
	4642	松尾 夏海	香川	6.25	0.16	1,287	
	3232	山川美由紀	香川	6.18	0.16	1,267	
	4183	宇野 弥生	愛知	6.12	0.08	1,653	
	3611	岩崎 芳美	徳島	6.08	0.24	1,405	
	4804	高田ひかる	三重	6.08	0.20	1,288	
	4447	深川麻奈美	福岡	5.94	0.31	1,438	
	4017	向井 美鈴	山口	5.88	0.03	1,582	
	20	4225	土屋 千明	群馬	6.86	0.19	1,249
	21	4963	實森 美祐	広島	6.84	0.25	1,552
	22	3435	寺田 千恵	岡山	6.82	0.01	1,875
23	4456	鎌倉 涼	大阪	6.58	0.06	1,290	
24	4387	平山 智加	香川	6.54	0.14	1,478	
25	3645	浅田千亜希	徳島	6.43	0.20	778	
26	3999	大瀧明日香	愛知	6.32	0.08	1,529	
27	5088	高嶋 四季	大阪	6.29	0.23	1,416	
28	4627	藤原 菜希	東京	6.27	0.24	1,078	
29	3845	中谷 朋子	兵庫	6.22	0.04	1,332	
30	4825	倉持 莉々	東京	6.20	0.18	694	
31	4884	勝浦 真帆	岡山	6.17	0.09	1,770	
32	4347	魚谷 香織	福岡	6.14	0.23	1,136	
33	4240	今井 裕梨	群馬	6.12	0.2	1,358	
34	4611	今井 美亜	福井	6.12	0.15	1,286	
35	4117	廣中智紗衣	東京	6.11	0.13	1,264	
36	3618	海野ゆかり	広島	6.04	0.17	1,624	
37	4746	大豆生田蒼	埼玉	6.01	0.37	1,076	
38	4373	若狭奈美子	岡山	6.00	0.16	1,297	
39	4478	櫻本あゆみ	群馬	6.00	0.11	1,225	
40	4927	関野 文	大阪	5.99	0.19	1,546	
41	4690	高石 梨菜	東京	5.91	0.12	686	
42	4536	喜井つかさ	岡山	5.89	0.28	1,420	
43	5205	刑部亜里紗	静岡	5.88	0.30	1,212	
44	4473	藤堂 里香	福井	5.88	0.10	1,176	
45	4758	富樫 麗加	東京	5.88	0.29	946	
46	5129	山口真喜子	長崎	5.86	0.29	1,436	
47	3900	香川 素子	滋賀	5.86	0.22	1,201	
48	4738	清埜 翔子	埼玉	5.85	0.13	1,498	
49	4286	平田さやか	東京	5.81	0.15	1,662	
50	4773	中川 りな	福岡	5.78	0.01	1,637	
51	4014	片岡 恵里	山口	5.74	0.01	1,234	
52	4065	金田 幸子	岡山	5.74	0.12	1,130	



今大会からGIの舞台に戻ってくる。この1年は一般戦が主戦場だったとはいえ、各地で優出優勝を重ねてきた。待ちに待った大舞台でどんなインパクトを残すのか、ファンの期待は膨らむばかりだ。

優勝候補はもちろんこの3人だけではない。渡邊優美は3月の若松ヴィーナスシリーズを勝って福岡3場制覇を達成した。旋回スピードは上位の存在で戴冠も十分にありうる。

前期かなり苦戦を強いられていた細川

裕子は4月の津で優勝することをキッカケに息を吹き返した。翌節のびわこ、そしてLASでも優出と現状は調子を取り戻してきていると言っている。

西橋奈未と實森美祐の119回期コンビからも目が離せない。西橋は今年3月に頭蓋骨骨折の大ケガを負い、長期離脱も考えられたが、ケガをした約2週間後の宮島周年でスピード復帰を果たし、いきなり予選を突破する活躍を見せた。さらにG・Wのびわこでは復帰後初優勝と不安は全く感じさせない。一方の實森は今年に入りいきなり児島で自身2度目の優勝を決めると、2月の中国地区選では紅一点で優出と開幕ダッシュに成功。今年の勝率は7点台を残すなど絶好調だ。賞金的にも年末を目指せる位置にいるだけに、今大会でその座を不動のものになりたい。

昨年10月に出産から復帰して1年たらずしてGIの舞台に戻ってきた倉持莉々や、早いスタート力を武器に実力派へと駆け上がりつつある勝浦真帆からも楽しみな存在。山川は遠藤の追隨を許さず5度目の戴冠なるか。その他にも高嶋四季や清水愛海など急成長中の若手がどんな走りを見せるのかにも注目したい。

地元静岡支部からは三浦永理が不在で長嶋万記が大將格となる。SQMでは予選中1勝もできなかっただけに今回はその借りを返したい。リベンジに燃えるのは長嶋だけではない。SQMでは優勝戦まで進みながらも転覆で終わった川井萌やGIで初の予選突破を目指す刑部亜里紗の活躍にも期待したい。

# LADIES CHAMPIONSHIP in HAMANAKO

●表2 出場選手の浜名湖通算成績上位25人

順位	登番	選手	勝率	出走数	優出	優勝
1	4482	守屋 美穂	6.98	107	5	0
2	3232	山川美由紀	6.70	399	18	3
3	4387	平山 智加	6.62	169	7	0
4	3618	海野ゆかり	6.57	269	14	2
5	4456	鎌倉 涼	6.51	150	6	3
5	4347	魚谷 香織	6.51	82	2	1
7	4590	渡邊 優美	6.50	119	7	1
8	3611	岩崎 芳美	6.46	241	12	1
9	3435	寺田 千恵	6.38	380	10	0
10	4502	遠藤 エミ	6.34	164	5	1
11	4963	實森 美祐	6.32	38	1	0
12	3845	中谷 朋子	6.30	212	5	1
13	4123	細川 裕子	6.21	247	7	0
14	4117	廣中智紗衣	6.18	217	4	2
15	4017	向井 美鈴	6.13	174	3	1
16	3645	淺田千亜希	6.12	187	8	3
17	4746	大豆生田蒼	6.04	45	1	1
18	5088	高嶋 四季	6.03	65	1	0
19	4190	長嶋 万記	5.97	615	16	4
20	4927	関野 文	5.86	29	0	0
21	4065	金田 幸子	5.80	286	5	1
22	3999	大瀧明日香	5.74	368	8	0
22	4433	川野 芽唯	5.74	128	6	0
24	3900	香川 素子	5.70	165	0	0
24	4961	西橋 奈未	5.70	97	2	0

●表3 過去5年の浜名湖成績  
上位15人(2020/6/1~2025/6/22)

順位	登番	選手	勝率
1	4502	遠藤 エミ	8.36
2	4590	渡邊 優美	7.55
3	4482	守屋 美穂	7.47
4	4627	藤原 菜希	7.30
5	4530	小野 生奈	7.27
6	3232	山川美由紀	7.23
7	3618	海野ゆかり	7.15
8	3845	中谷 朋子	7.00
9	4963	實森 美祐	6.97
10	4117	廣中智紗衣	6.95
11	4123	細川 裕子	6.77
12	4347	魚谷 香織	6.72
13	4190	長嶋 万記	6.58
14	4456	鎌倉 涼	6.58
15	4065	金田 幸子	6.57

湖オールレディースで優出している。19年のクイーンズクライマックス以降、優勝の快音は聞こえてこないが、近況は復調の兆しが出ていて久々の美酒へ。その今井を6月のALで下し今年2度目の優勝を飾った若狭奈美子やSQMで何度も好タイムを連発した川野芽唯にも要注意だ。

平山智加



## 得意の舞台で平山智加が復活へ 鎌倉涼も縁のある水面で初戴冠を目指す

表2は浜名湖での勝率上位25人。出走回数にバラつきがあるため、あくまで参考程度だが、ここでは守屋美穂がメンバートップの勝率を残していた。遠藤エミは過去通算で見れば10位と順位は決して高くないが、表3の通り過去5年に限れば8点台の勝率を残しているのはさすがのひとこと。その一方で浜田亜理沙は通算成績で上位25人に入ることはずいぶん(26位)。過去5年に絞っても16位と目立たない。当地ではもう一歩といった印象だ。

上位にいる選手に目を向けるとベテランの名前が多い。特に山川美由紀、海野ゆかり、岩崎芳美の3選手は今年2月のスピードクイーンメモリアルでも優勝戦に駒を進めているだけに今回もやはり注目したい。

平山智加も過去7優出と実績は十分。今年に入ってから本来の実力を発揮できていないが、GI3Vの実力者だけに得意の舞台で復活するか。鎌倉涼は通算21Vのうち3Vがここ浜名湖。夫の深谷知博は静岡支部と浜名湖には縁があり、初女王戴冠に期待がかかる。ビッグタイトルでは派手な活躍こそないが廣中智紗衣も当地の相性はいい方。GI初勝利が06年のこのタイトルで、20年には年間に2回、浜名湖での優勝があった。

上位には名前が入らなかつたものの今井美亜は昨年、今年と浜名

鎌倉涼



# 地元番記者が厳選

## 浜名湖の注目エンジンを丸裸に!!

2連対率は25年6月18日時点のもの

<b>18</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>13</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>2</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>36</b> 号機	評価 <b>S</b>	<b>30</b> 号機	評価 <b>S</b>
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
<b>56.8%</b>	↗	<b>42.5%</b>	↗	<b>42.8%</b>	→	<b>50.8%</b>	↗	<b>44.4%</b>	→
初降ろしから伸びは好調をキープ。ゴールデンウィーク戦では坪井康晴がバランス良く仕上げで準優勝。		6月以降はレース足を主体に上昇カーブを描く。オールレディースは当地初出場の米丸乃絵が6強入り。		乗り手によって出足、伸びと特徴が出る。オールレディースでは山下友貴が約11年ぶりの当地優出を果たす。		5月に後藤正宗が本体整備してから急上昇。オールレディースでは若狭奈美子がレース足を仕上げで当地初V。		初降ろしから直線は好気配。乗り手がA級に代わって以降は出足、行き足型にシフトして常にトップクラス。	
<b>56</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>52</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>41</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>32</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>19</b> 号機	評価 <b>A</b>
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
<b>44.0%</b>	→	<b>23.5%</b>	↑	<b>55.9%</b>	↘	<b>47.9%</b>	↗	<b>45.9%</b>	→
1節目を含む2度の優出するなど高いレベルで推移。調整の反応がはっきり出てストライクゾーンが広い。		低調が続いていたが、6月に阿波勝哉がピストンリングを交換して伸びは抜群に。今後も注目の1基だ。		当初から伸びは上々でゴールデンウィーク戦は佐々木康幸がV。近況落ち目もエース機候補の1つ。		初降ろし節で最速タイムをマーク。オールレディースでは廣中智紗衣が快速に仕立てて予選トップ通過。		近況は目立つ気配ではないが、レース足は高値安定。ゴールデンウィーク戦は服部幸男が節一級に仕上げた。	

現行モーターは4月15日が初降ろし。6月の「オールレディース」まで7節使用され、各モーターの出場機会は最多で6節、最少で3節と日は浅い。その中でエース機候補と言えるのが30号機だ。初降ろし節から伸びの気配は良かったが、3節目の中村尊が出足、回り足型にモデルチェンジして優出(6着)。5〜6月の「サンケイスポーツ杯」では赤岩善生が調整手腕を発揮して行き足を軸に出足、回り足を仕上げで予選トップ通過からの王道Vを飾った。その後も高岡竜也、落合直子が全体的に節一クラスのパワーを披露。4節連続で優勝戦に駒を進めており、今後も活躍が大いに期待される。「オールレディース」で若狭奈美子が当地初優勝を達成した36号機も近況急上昇した1基でS評価。5月下旬に後藤正宗が節間でピストンリングを交換してから気配が一変。その後2節出場して全体的に力感ある動きを披露。若狭はタイン後の押しが強烈で、道中は前を追い抜く場面もありレース足が光った。

A評価は2号機、13号機、18号機、19号機、32号機、41号機、52号機、56号機。2号機は乗り手の方向性に依りて特徴が出るオールマイティーなモーター。13、32号機はバランス型で、19号機は出足、行き足が良くレース足系。56号

## エースは4節連続優出30号機 近況急上昇の36号機も猛追

機は初降ろしから高いレベルで安定しており、節によってはトップ級のパワーを誇る。4節目終了後に2連対率1位に立った41号機は成績こそ下降線にあるが、対戦相手からは好評を得ており見限れない。調整力のある選手に渡れば勢いを取り戻すはずだ。代わって2連対率1位に浮上した18号機は行き足から伸びが良好。伸びなら6月に阿波勝哉がチルト2、2.5度で、カマシ屋の本領を発揮して3勝を挙げた52号機が上位だ。10基以外では7、21、31、34、44、47、55、62号機に、伸びシロがあり、動向を注視したい。

(ガイド・佐野)

